

時代潮流の変化と中長期的展望について

1 基本構想への位置付けの意義

- ・ 自治体を取り巻く環境の変化に対し、行政が取り組んでいかなければならない、対応の方向として、基本構想の目標年次を踏まえた時代潮流の変化をまとめ、これに関する中長期的な展望を示す。

2 時代潮流の変化と中長期的展望について

◆ 少子・超高齢社会¹、人口減少の時代

○ 日本における人口減少時代²の到来

- … 平成 17 年に戦後はじめてマイナスに転じる

○ 一層、少子・高齢化が進行

- … 20%を超える高齢化率は、今後も上昇を続けると見込まれる
- … 後期高齢者³人口が前期高齢者⁴人口を上回り、かつ、その構成比を高めていく傾向
- … 合計特殊出生率⁵は「超少子化国⁶」と呼ばれる水準に
- … 年少人口は今後も減少傾向が続くと見込まれる

○ 労働力人口の急激な減少や、社会保障費の増大がさらに深刻化。一方で、豊富な知識・経験、社会への貢献意欲をもった高齢者も増加

○ このため、子どもから高齢者まで健康で快適にいきいきと暮らせる社会環境づくりを進めていくことが求められる

- … 都市の基盤については、既存の社会資本の有効活用を図りつつ、人口減少時代に対応した持続可能なまちづくりへの転換を図ることが求められる

¹ 超高齢社会 一般に高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」と呼んでいる。なお、明確な定義はないが、今後到来が予想される高齢化率の一段と高い社会を「超高齢社会」と呼ぶことがある。

² 人口減少時代 平成 18 年版「高齢社会白書」内閣府より

³ 後期高齢者 75 歳以上

⁴ 前期高齢者 65～74 歳

⁵ 合計特殊出生率 15 歳から 49 歳までの各年齢ごとに、ある年の女性 1 人あたりの出生率を求め、その出生率を合計したもので、その年の出生率から 1 人の女性が生涯に産む子どもの数を推計したもの

⁶ 超少子化国 人口学では、合計特殊出生率が 1.3 を割った国を「超少子化国」と呼ぶことがある。わが国では、平成 15 (2003) 年に 1.29 を記録した。

- … 子どもに関する施策については、子育て・子育て環境の充実がますます重要となっている
- … 高齢者については、“支えられる世代”というこれまでの固定観念にとらわれず、いわゆる「アクティブシニア」として、地域づくりの主役の1人としての活躍ができる環境づくりが重要な取組になる

◆地球環境問題の深刻化の時代

- 温室効果ガスの大量排出による地球温暖化や、大量生産・大量消費による地球資源の枯渇などの地球環境問題は、今後も国際的な対応が必要な課題
- これらの問題は、市民の日常生活や、事業者の活動などと大きな関係を持っていることから、地域レベルでのさらなる取組が課題

○ このため、かけがえのない地球環境や、限りある資源を大切にす**「循環型社会」の構築をより一層推進していくことが求められる**

- … 行政のみならず、市民や事業者が身近な暮らしのなかで、地球規模での環境問題を捉える
- … 地球的規模での課題の解決への欲求を新たな価値観として深く意識や生活・行動に取り入れる
- … 「3R」(リデュース・リユース・リサイクル⁷)のさらなる推進などに取り組む

◆ボーダーレス社会の進展の時代

- 市民や事業者の活動はますます広域化の傾向
 - … 行政区域の枠を越え、広域的な圏域における各自治体の機能分担を視野に入れたまちづくりの展開が重要性を増していく
- 経済構造や雇用形態など社会経済の仕組みについても一層ボーダーレス化が進行
 - … 特に情報技術の革新は、市民の暮らしや事業者の活動、都市のあり方に大きな影響

⁷ リデュース・リユース・リサイクル 「循環型社会形成推進基本法」によると、循環型社会とは、①不要物を作らない、買わない、過剰包装をやめるなどにより、廃棄物の発生を抑制する(Reduce)、②それでも発生する廃棄物については、そのなかの有用なものを「循環資源」と定義し、そのうち原型のまま何度か使えるリターナブル容器などは再使用する(Reuse)、③原型のまま使えなくとも、新びんをつくる原・材料として使えるワンウェイびんなどは再利用する(Recycle)

- … 情報通信ネットワークは、グローバルな規模で場所や時間にとらわれない生活行動や企業活動の自由度を拡大
- … さらには、中国等、アジア経済の台頭や、バイオテクノロジー等、市場に変化をもたらす新技術の開発は、グローバルな規模でインパクトを与え、その影響が、地域産業にも波及

○ **このため、**

“ボーダーレス化の活用”が求められる

- … 情報通信基盤の整備による市民生活の利便性の向上、
- … 産業面での知的生産性の向上

○ **さらには、**

“ボーダーレス化への対応”が求められる

- … 地域産業の基盤強化・競争力強化

◆人間回帰の時代⁸

○ **生活の質の向上に対する欲求のさらなる高まり**

- … 成熟社会における人々の価値観は多様化
- … 人間的価値を重視しながら、それぞれのライフスタイルに即した「もの」や「サービス」を選択し、能動的に余暇活動や生涯学習活動にいそしむ

○ **社会に目を移すと、個人主義の傾向が強まるなか、他人への思いやりや、社会との協調が改めて重要視されている**

- … 家庭の絆や地域社会の絆といった人間的な繋がりがもたらすさまざまな機能の再生が、多様な地域課題に対応していくための重要な要素となる

○ **都市のあり方に目を移すと、これまで、経済性・効率性の追求が全国に生み出した“画一的なまちづくり”に対する反省から、改めて、都市が人間の営みの場として捉え直されている**

- … 「生活の質の向上」を重視し、地域の特性を生かした、生活環境や都市環境の質を探求するまちづくりへと転換が図られていく

○ **このため、改めて人間本来のあり方に回帰し、**

日常生活におけるさまざまな困難や、地域の課題に対し、社会的ネットワークをもとに、

⁸ 人間回帰の時代 ここでは、「人間」という言葉を、人間同士の支え合いや自然との共存のなかに生きる地球や社会の一員としての人間、あるいは、社会的協調のなかに幸福や自己実現を欲求し、営み住まう、生活者としての人間など、本質的な意味での「人間」と捉え、ひととしてのあり方を中心に据えた価値観が、これからの暮らしやまちづくりの基調となっていく旨を「人間回帰の時代」と表現した。

連帯して対応していくことが求められる

… 個人同士，団体，組織，コミュニティ等における絆や信頼関係，人間関係等に基づく社会的ネットワーク，いわゆる「社会関係資本」（ソーシャル・キャピタル）の形成を促進

○ **また，**

いわゆる“ヒューマン・スケール”のまち。生活者たる人間のあり方に回帰した都市の創造が求められる

… 環境との調和を図りながら，地域の特性を生かした都市アメニティ⁹を創造。市民としてのアイデンティティを育み，多様な人，もの，情報等が集積・交流し，まち全体の活力を生み出す都市

… あらゆる人が暮らしやすく，多様な価値観を認め合い，互いに助け合う都市

◆分権型社会の進展の時代

○ 市民・事業者・行政が，適切な役割分担のもと，互いに連携・協力し合うパートナーシップによるまちづくりが一層重要となっている

… コミュニティ組織，さらにはボランティア団体やNPOなどが，「公共」の領域を担う主体の1つとして，ますますその活躍の場を広げる

○ 地方自治体は，地域の活力やダイナミズムを維持・向上させるとともに，各々の創意工夫によって，地域の実情に即したまちづくりを進めていくことがますます重要となっている

○ **このため，市民自治の充実強化に向けた支援が求められる**

○ **ますます高度化・複雑化するさまざまな行政課題に的確に対応していくことが求められる**

… 地方分権改革のさらなる進展や，「道州制¹⁰」導入の議論などを視野に入れながら，本市の自治能力のさらなる向上を図る

○ **また，高次な都市機能，広域的な圏域での拠点性，独自の文化を備えた，魅力や風格あるまちづくりが求められる**

… 北関東の中核都市，首都圏における主要都市の1つとして，ふさわしいまちづくり

⁹ 都市アメニティ 都市における快適な環境，ないしは魅力ある環境を意味する。

¹⁰ 道州制 数府県を包括する行政区画として州を設置しようとする自治制度案をいう。